

## 学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	康 翰娜			
学位の種類	博士（学術）			
学位記番号	都市博甲第2398号			
学位授与年月日	2023年3月23日			
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項			
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻			
学位論文題目	韓国映画が再生産する記憶－韓国フィクション時代劇の拡大と集合的記憶の形成－			
論文審査委員	主査	横浜国立大学	教授	小宮正安
		横浜国立大学	教授	大須賀史和
		横浜国立大学	教授	四方田千恵
		横浜国立大学	准教授	辻大和
		横浜国立大学	名誉教授	白水紀子

## 論文及び審査結果の要旨

本論文は、韓国映画における「フィクション時代劇」（過去の出来事や人物を背景にしつつ作り手の想像力を加え、ファクトとフィクションを混ぜ込む新ジャンル）に着目し、それが韓国において人気を集めている理由、またその現象が持つ意味を、包括的に論じたものである。

第1章『韓国フィクション時代劇と集合的記憶』では、韓国フィクション時代劇に関し新聞や雑誌、放送など韓国マスメディアで用いられる「歴史を描く」、「映画が歴史と出会う」などの表現に注目し、アルヴァックス、安川晴基、金瑛、アスマン夫妻等の「歴史」と「記憶」に関する論を多角的に用いながら、韓国フィクション時代劇が「歴史」そのものではなく、「記憶」に関わるものであることが検証された。

第2章『韓国フィクション時代劇における記憶研究とは』では、個人レベルのみならず集団レベルにおいておこなわれる過去のイメージを想起や忘却に関する映画社会学からの分析を通じ、韓国社会でフィクション時代劇が集合的記憶を再生産する場になっていること、様々な映画作品を通じて集合的記憶の想起および再構成が行われていることへの考察が展開された。

第3章『日本植民地時代を描く韓国フィクション時代劇の本当らしさと世論』では、『青燕』『暗殺』『軍艦島』の内容や批評をめぐり、日本植民地時代を描く韓国フィクション時代劇には描かれる対象に働く「良識」という社会的検閲、またこれらのジャンルを通じて形成される韓国特有のアイデンティティについて、具体的な分析がおこなわれた。

さらに第4章『「光州事件（5・18 民主化運動）を描くフィクション時代劇」の本当らしさと資料体（コーパス）による効果』では、前章に続いて、集合的記憶が想起され、変形され、歪められ、再評価され、更新されるプロセスを詳細に検証した。結果、集合的記憶というものには、過去を選択的に構成する「現在」があることが明らかにされた。

第5章『韓国映画における集合的記憶の形成とナショナル・アイデンティティ』では、これまでの論を踏まえながら、フィクション時代劇で強調される「本当らしく見えるフィクション」が、世論や資料体の効果により、フィクションであるにもかかわらず想像の自由を失う状況への批判的な分析と考察がおこなわれた。

以上、先行研究や関連資料に対する詳細な調査に基づき、「歴史」「記憶」に関する欧米の研究を踏まえつつ、体系的にこの問題について論じた先行研究がほとんど存在しない中で、韓国のフィクション映画の作品や作品受容に関する分析を進めてゆく意欲的論文であると高く評価された。また今後、韓国映画全体や記憶研究に関する発展性を有する研究であることも、本論文の意義を示すものとして評価された。

提出された論文に対して、iThenticateにより文献との重複の有無を確認したが、専門用語や一般的な事項の定義、また自身の発表論文を除いて既往文献との重複はなく、剽窃、盗用の不正行為はないことを確認した。

以上のことから、本論文は学術的価値や新規性を十分に含んでおり、博士（学術）の学位にふさわしいと判断された。

(試験の結果の要旨)

- ・令和5年2月8日(水)13:00よりリモートにおいて公聴会
- ・令和5年2月8日(水)14:30よりリモートにおいて審査委員会を開催した。

その結果、博士学位論文として十分な内容を有しており、合格と判定した。質疑にも的確に対応し、査読付き論文の発表により外部による評価も受けていることから、学位論文を中心として、これに関連する分野の科目について博士(学術)の学位を得るにふさわしい学力を有すると判定した。

なお、修了に必要な単位は取得済みである

- ・外国語については、康翰那の場合には日本語が外国語となるが、日本語による学位論文の執筆を始め、査読付き論文の執筆や学会での口頭発表の実績、また審査会における的確な質疑応答から、十分な日本語の能力を有していると判断した。
- ・研究業績は以下の通りであり、学位取得に必要な数を満たしていると判断された。
  1. 出版物:「コンテンツ・ボーダーレス」、康翰那、クロスメディア・パブリッシング、1-28頁、2022年
  2. 対外発表論文:「日本植民地時代を描く『韓国フィクション時代劇』における本当らしさ」、康翰那、『常盤台人間文化論叢』第6巻、1号、33-61頁、2020年
  3. 対外発表論文、および対外研究発表:「韓国出版物にみる日本への視線の変化ー日本の現代文化は、どのように語られているのかー」『朝鮮史研究会報』第201号、15-16p、朝鮮史研究会例会、2015年4月

以上により、最終試験は合格であると判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。